

登壇者紹介

山本 昭宏 (Akihiro YAMAMOTO) 神戸市外国語大学准教授、メディア文化史

主な著書・論文：『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書、2021年。
『近頃なぜか岡本喜八——反戦の技法、娯楽の思想』みずき書林、2020年（編著）

村上 陽子 (Yoko MURAKAMI) 沖縄国際大学准教授、沖縄・日本近現代文学

主な著書・論文：『イクサの記憶を生きる身体——崎山多美「うんじゅが、ナサキ」論』『沖縄国際大学日本語日本文学研究』25(1)、2021年。『出来事の残響——原爆文学と沖縄文学』インパクト出版会、2015年。

福間 良明 (Yoshiaki FUKUMA) 立命館大学産業社会学部教授、歴史社会学・メディア史

主な著書・論文：『「勤労青年」の教養文化史』岩波新書、2020年。
『戦後日本、記憶の力学——「継承という断絶」と無難さの政治学』作品社、2020年。

廣川 和花 (Waka HIROKAWA) 専修大学文学部教授、日本近代医学史

主な著書・論文：『ハンセン病者の社会史——日本の〈近代化〉の中で』秋田茂・脇村孝平編『人口と健康の世界史』ミネルヴァ書房、2020年。『近代日本のハンセン病問題と地域社会』大阪大学出版会、2011年。

吉田 裕 (Yutaka YOSHIDA) 一橋大学名誉教授／東京大空襲・戦災資料センター館長、日本近現代政治史

主な著書・論文：『日本人の戦争観』岩波現代文庫、2005年。『日本軍兵士』中公新書、2017年。
『兵士たちの戦後史』岩波現代文庫、2020年。

編者紹介

蘭 信三 (Shinzo ARARAGI) 大和大学教授／上智大学名誉教授、歴史社会学・国際社会学

『戦争と性暴力の比較史へ向けて』岩波書店、2018年（共編著）。

小倉 康嗣 (Yasutsugu OGURA) 立教大学教授、社会学・ライフストーリー研究

『原爆をまなぐす人びと——広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィー』新曜社、2018年（共編著）。

今野 日出晴 (Hideharu KONNO) 岩手大学教授、歴史教育・日本近現代史

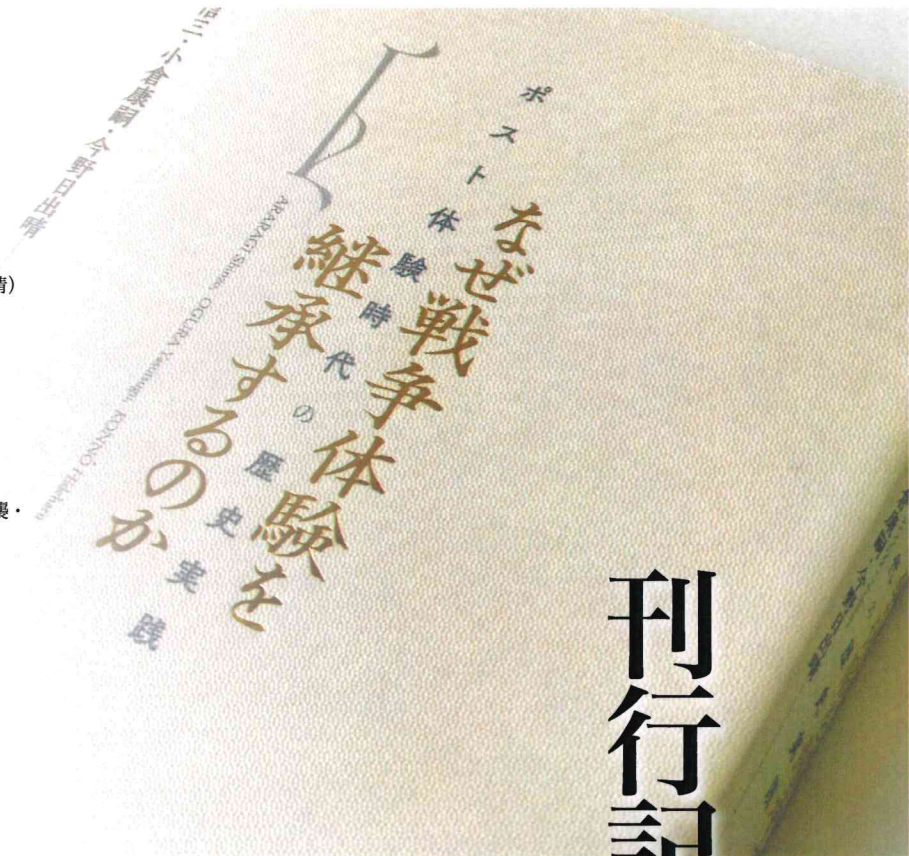
『歴史学と歴史教育の構図』東京大学出版会、2008年。

刊行記念シンポジウム

なぜ戦争体験を継承するのか
ポスト体験時代の歴史実践

蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編著（みずき書林）

戦後七十六年、世界情勢が激変するなか、〈あの戦争〉を体験した当事者なき時代を迎えつつあります。そのようななか、戦争体験の継承は可能なのでしょうか。そもそも私たちはなぜそれを継承しなければならぬのでしょうか。このような問題意識のもと、戦争体験の継承をめぐる歴史実践の意味を問い直したのが、「なぜ戦争体験を継承するのか」ポスト体験時代の歴史実践」です。そこで、世代も専門も多様な論客が登壇し、本書の意義と課題を論じます。皆様方のご参加をお待ちしております。



プログラム

- 13時30分 開会の挨拶（蘭 信三）
- 13時35分 コメント（各20分）
- 15時30分 リブライ
- 16時10分 総合討論
- 16時55分 閉会の挨拶（今野日出晴）

コメント

- 山本昭宏（神戸市外国語大学）
- 村上陽子（沖縄国際大学）
- 福間良明（立命館大学）
- 廣川和花（専修大学）
- 吉田 裕（一橋大学／東京大空襲・戦災資料センター）

リブライ

- 小倉康嗣（立教大学）
- 今野日出晴（岩手大学）
- 各執筆者

司会

- 山本品子（慶應義塾大学大学院）
- 蘭 信三（大和大学／上智大学）

日 時 2021年 7月 11日 日
13時30分 ～ 17時

開催方法 オンライン

要事前登録 申込み締切り▶7月7日 水



【登録方法】

左のQRコードもしくは下のURLから登録フォームに進み、必要事項を入力して送信してください。シンポジウム前日までにZOOMのアクセス情報をお送りします。
<https://forms.gle/GE2iNM2dq8jLYN6z8>

問い合わせ先 kaken25245060@gmail.com

主催：科学研究費研究班「東アジアのポストコロニアルを聞き取る」（研究代表：蘭 信三）

共催：戦争社会学研究会、日本オーラル・ヒストリー学会、科学研究費研究班「もの、語り、アート、宗教にみるトラウマ体験の共有と継承」（研究代表：田中雅一）

みずき書林：<https://www.mizukishorin.com/>